

演習

暮らしの保健室から考える 地域の特徴をいかす看護

● 演習の目標

- 全国各地の暮らしの保健室について調べることで、地域には多様な特徴があることを知る。
- 地域の特徴を知ることが、どのように看護につながるかを考える。

● 演習の進め方

全国にある暮らしの保健室について、ウェブ検索をして調べてみよう。そのなかから、興味をもった地域にある暮らしの保健室を1つ選んで、ワークシートにそって進めていく。グループで演習を行う場合は、各自ができるだけ異なる地域にある暮らしの保健室を選ぶとよい。

なお、次のウェブページも参考になる。暮らしの保健室 <https://kuraho.jp/>

ステップ1 興味をもった暮らしの保健室を1つあげてみよう。

ウェブ検索で見つけた興味をもった暮らしの保健室を1つあげ、なぜその暮らしの保健室を選択したのか、どのような点に興味をもったのか、また疑問に思った点など、自分の感じたことや考えたことについてワークシートに整理してみよう。

ステップ2 選んだ暮らしの保健室のある地域の特徴と活動内容をまとめてみよう。

ステップ2-1：自分で選んだ暮らしの保健室のある地域の特徴をまとめる。面積や人口などの基本的な統計データや、交通手段や社会資源などについても調べられるとよい。

ステップ2-2：暮らしの保健室の具体的な活動内容についてまとめる。

ステップ2-3：**ステップ2-1**、**ステップ2-2**で調べたことをグループ内で発表し、ほかのメンバーが調べた暮らしの保健室と比較する。

ステップ3 暮らしの保健室の活動は、その地域の特徴とどのようなつながりがあるのか、グループで意見を出し合ってみよう。

ステップ3-1：地域の特徴が、暮らしの保健室の活動にいかされていると感じられたことをあげてみよう。

(例：ひとり暮らしの高齢者が多い地域。週に1度、高齢者が集まってお茶を飲みながらおしゃべりをする茶話会を実施している。)

ステップ3-2：**ステップ3-1**であげた活動が、地域の人々にとってどのような支援につながっているか、考えてみよう。

(例：高齢者の閉じこもり防止や健康状態の確認、地域のコミュニティづくりにつながる。)

ステップ3-3：地域の特徴を理解することと看護がどのようにつながるのか、意見交換をしてみよう。

○演習を進めるにあたって気をつけること

この演習は、正解が1つではない。正解を求めるのではなく、「対話」を重視した話し合いをすることが大切である。「対話」は、自分と相手の意見を互いに伝え合い、他者と意見の異なる点のメリット・デメリットを考え、自分たちで納得できる結論を導き出すためのコミュニケーションである。

地域には多様な価値観をもつ人々が暮らしている。その地域に暮らす人々を対象とした看護では、本音で相手と話し合い、わかり合うことや、実践できることを双方で探して合意を得ることに時間をかける必要がある。

○話し合いのポイント：こんなことに気をつけてみよう。

- 全員が自由に発言できるようにする。
- 発言していないメンバーに声をかけてみる。
- ひと言でもいいから発言してみる。
- 自分のなかにある感情や経験、価値観を意見として他者に伝える。
- 誰かが発言している際は関心をもって最後まで聞く(他者を尊重する)。
- 自分とは異なる意見でも、まずはいったん受けとめる。
- 少数派の意見も聞く。

ワークシート 暮らしの保健室の実例から、地域の特徴をいかす看護について考えてみよう。

ステップ1 興味をもった暮らしの保健室を1つあげてみよう。

- 暮らしの保健室の名称：
- 地域：
- 選んだ理由や、興味をもった点、疑問に思った点：

ステップ2 選んだ暮らしの保健室のある地域の特徴と活動内容をまとめてみよう。

ステップ2-1

- 地域の特徴
 - ・面積
 - ・人口(総人口/年齢区分人口)
 - ・世帯数
 - ・人口密度
 - ・交通手段
 - ・社会資源
 - など

ステップ2-2

- 活動内容

ステップ2-3

ほかのグループメンバーが調べた暮らしの保健室と比べてみよう。

ステップ3 暮らしの保健室の活動は、その地域の特徴とどのようなつながりがあるのか、グループで意見を出し合ってみよう。

ステップ3-1

地域の特徴が、暮らしの保健室の活動にいかされていると感じられたことをあげてみよう。

ステップ3-2

ステップ3-1であげた活動が、地域の人々にとってどのような支援につながっているか、考えてみよう。

ステップ3-3

地域の特徴を理解することと看護がどのようにつながるのか、意見交換をしてみよう。